

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：13801

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01184

研究課題名（和文）医療・ケア現場における、「人間の尊厳」を中心とした対話のための包括的研究

研究課題名（英文）Comprehensive study on dialogue focused on "Human Dignity" in home medical care

研究代表者

堂園 俊彦 (Dozono, Toshihiko)

静岡大学・人文社会科学部・教授

研究者番号：90396705

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、在宅医療に関わる専門職を対象にしたインタビュー調査、病院における倫理的問題と在宅医療における倫理的問題との比較検討、さらには、具体的な倫理的問題に関して専門職と対話を行うことにより、在宅の領域における「人間の尊厳」は、その人らしく日々の生活を送る「人生の尊厳」にあることを明らかにした。

さらに、患者・利用者、家族、医療・ケア従事者すべての尊厳が尊重される在宅医療・ケアを推進するべく、在宅の領域で活動する医師、看護師、ケアマネジャーなどの医療・ケア従事者や、多様な研究者16名とともに、『在宅ケアの悩みごと解決マップ ケースで現場の問題「見える化」します』を出版した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来、「人間の尊厳」は、哲学や倫理学を専門とする生命倫理学者たちにより、いわばトップ・ダウンの形で、一定の解決を導く原理として議論されてきた。しかし、こうした理解は、事例に応じた多様な解決を基本とする臨床倫理学とは、必ずしも相性が良いとは言えない。そのため、これまで臨床倫理学における尊厳概念の意義は必ずしも明確ではなかった。本研究を通じて、その人らしく日々の生活を送る「人生/生活の尊厳」が在宅医療において重要であることが示された。また、さまざまな形で脅かされ、侵害される尊厳を具体的に保護するための方策を、在宅・医療の領域に従事する専門職自身が対話し考えるためのケースブックを出版した。

研究成果の概要（英文）：Our study found that “human dignity” in home healthcare is based on “living a daily life according to people’s values” through an interview survey of home healthcare professionals, comparing ethical issues between home and hospital settings, and discussing specific ethical issues.

Furthermore, we recently released a publication titled “Mapping out approaches for home healthcare problems; using cases for ‘visualization’ of problems in practical settings,” which features 16 coauthors, including medical doctors, nurses, care managers, and other medical/care professionals involved in home healthcare as well as researchers from diverse backgrounds. Our goal is to promote home healthcare that respects the dignity of everyone involved, whether they are a patient/client, a family member, or a medical/care professional.

研究分野：哲学、倫理学、医療倫理学

キーワード：人間の尊厳 在宅医療・ケア 臨床倫理学 対話

1. 研究開始当初の背景

近年、医療の現場において、アドバンス・ケア・プランニング(ACP)が着目されている。ACPとは、人生の最終段階の医療・ケアに関して、本人が家族や医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合うプロセスとして定義されている。ACPの意義がこのように強調される背景には、「人間の尊厳の尊重」がある。実際、リーフレットには、「患者さんの意思を尊重した医療及びケアを提供し、尊厳ある生き方を実現することがACPの目的」と書かれている。意思の尊重と尊厳の尊重をこのように同一視する立場は、自律的存在を尊厳の担い手とする伝統的な立場とも合致する。ACPという話し合いのプロセスがその人の尊厳ある生き方を支えるのは、その人の自律的判断に沿った形での医療・ケアが可能になるからなのである。

しかし、人生の最終段階において医療・ケアの受け手になり、その尊厳を尊重されなければならないのは、ACPの話し合いを通じて自律的判断を示すことのできる存在だけではない。かつてはACPの機会をもつことができたものの、意思決定能力を失ったためにその機会を失った人(例えば、認知症が進行した人)や、そもそもそうした機会をもてない人(例えば、重度心身障害児)の尊厳も守られなければならない。ACPの強調は、そうしたプロセスをたどることのできない人の尊厳をどのように守ればよいのかを分かりにくくする。

もちろん、そうした人をも視野に入れた尊厳概念も、これまでに示されてきた。その代表は、ローマ・カトリックに見られる、尊厳の尊重を生命の維持と同一視する立場である。しかし、生命の維持が、その人の尊厳の尊重ではない可能性は考えられる。医療・ケアの現場において一人ひとりの尊厳を尊重するためには、自律的判断や生命と単純に同一されることのない、柔軟性をもった「人間の尊厳」概念が求められている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、医療・ケア現場において活用可能な、人間の尊厳概念を新たに定式化し、それを通じて、ACPよりも包括的な形で、医療・介護の現場において患者の尊厳を守る対話を実現・促進することにある。

3. 研究の方法

以下の三つの課題・方法を通じて研究目的を達成する。

- ドイツや北米において議論されている尊厳をめぐる議論を調査し、医療・介護現場と人間の尊厳の具体的な関わりについて重要な示唆を得る。
- 在宅医療・介護の場にいる専門職を対象としたインタビュー調査を通じて明らかにする。こうした調査研究を通じて、日本の医療・介護現場でも活用可能な尊厳概念を明らかにする。
- 広く医療・介護に携わる専門職に向け、患者の尊厳を守る話し合いのためのケースブックを執筆・出版する。

4. 研究成果

ドイツ臨床倫理学における「尊厳」概念の検討である。とりわけ尊厳の概念を重視する「再構成的臨床倫理のマインツモデル」や、カナダの精神科医であるハーヴェイ・チョチノフによって示されたディグニティ・モデル(DM)を比較検討した。DMは、カナダ人進行がん患者に対するインタビュー調査にもとづくものであり、患者本人が感じる「尊厳感覚」を中心にしており、尊厳感覚に影響を与える要素が詳細に示されている。しかし同時に、患者の視点を中心としているために、ドイツの臨床倫理学において問題となっていた存在・生命や他者との関係という意味での尊厳が十分に捉えられていないことが明らかになった。これらの尊厳を明らかにするには、尊重する側の視点から理解された尊厳に関して、インタビューを実施する必要があると示唆された。研究成果は学会において発表した。

ドイツにおける取り組みを調査する中で、地域の倫理的問題の受け皿として医師会が機能していることが明らかになってきた。そこで、各都道府県の医師会・看護協会に対して、倫理教育、倫理的問題の相談、指針作成といった倫理支援の状況を尋ねるアンケートを実施した。調査の結果、地域において医師会・看護協会が倫理支援において一定の役割を果たしていることが明らかになった。調査結果は学会において発表した。

在宅医療に関わる医療・ケア専門職(医師、看護師、介護福祉士、リハビリ専門職、薬剤師、ケアマネジャー、社会福祉士)を対象に、「人間の尊厳」の概念をどのように理解しているのかアンケート調査を実施した。各職種4名から5名ずつ(計29名)に対して、インタビューを実施した。インタビューの結果、在宅の領域における「人間の尊厳」は、「その人らしく日々の生活を送る」ことにあることを明らかにした。研究成果は学会において発表した。

研究責任者が運営に携わるNPOを母体として、「しずおか倫理カフェ」を開始し、在宅

医療・ケアの現場において実際に生じている問題に関して、地域の専門職の方たちと直接対話する場を設けることとした。ここから得られた知見に関しては、第33回日本生命倫理学会の公募ワークショップ「地域における臨床倫理支援」において、「カフェを通じた地域医療・ケアの倫理支援について」という演題で発表した。

これまでの研究成果を踏まえ、在宅の領域で活動する医師、看護師、ケアマネジャーなどの医療・ケア従事者や、多様な研究者16名とともに、『在宅ケアの悩みごと解決マップ ケースで現場の問題「見える化」します』（医歯薬出版株式会社）を出版した。本書は、第一部において「尊厳」の基本的な意味を概観し、第2部では、在宅医療においてしばしば問題となる16のケースを取り上げ、「尊厳」の視点から問題を明らかにするとともに、問題を検討する上でヒントとなるさまざまな考え方を示している。最後に、第3部では、個別性の高い倫理的問題を、関係者で話し合うための方法論を収録した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 堂園 俊彦, 亀田 有希子, 渡邊 達也, 氏原 淳	4. 巻 50 (4)
2. 論文標題 治験における包括同意の現状と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 臨床薬理	6. 最初と最後の頁 177-182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3999/jscpt.50.177	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 三浦靖彦	4. 巻 4(5)
2. 論文標題 ACPIに関する用語を理解する	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 在宅新療0-100	6. 最初と最後の頁 411-415
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 青田安史	4. 巻 20 (1)
2. 論文標題 下肢筋力が低下している高齢者の転倒予防	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 認知症ケア	6. 最初と最後の頁 11-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 竹内伸一, 鎌塚優子, 中村美智太郎	4. 巻 51
2. 論文標題 ケースメソッドによる道德教育実践を指揮した一校長に関する研究--リーダーの内面に形成されゆく教育実践基盤をナラティブから取り出す試み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 静岡大学教育学部研究報告 (教科教育学篇)	6. 最初と最後の頁 67-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14945/00026957	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井郷平、田中奈津子、大島安紀子、中村美智太郎	4. 巻 30
2. 論文標題 教員と教員養成系大学生を対象とした中学生の行動基準要因への認識に関する調査的研究--考え, 議論する「モラル教育」を実践できる教員の育成を目指して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 静岡大学教育実践総合センター	6. 最初と最後の頁 28-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14945/00027103	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮下修一	4. 巻 91(9)
2. 論文標題 不法行為による損害賠償請求権の消滅時効	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 法律時報	6. 最初と最後の頁 172-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 堂園俊彦
2. 発表標題 ディグニティ・セラピーはどのようにして尊厳を守るのか
3. 学会等名 「ケアの人間学」合同研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堂園俊彦, 神谷恵子, 竹下啓, 長尾式子, 三浦靖彦
2. 発表標題 公募ワークショップVIII 公立福生病院における透析治療の不開始・中止を考える
3. 学会等名 第31回日本生命倫理学会年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堂園俊彦
2. 発表標題 患者の尊厳に着目した倫理コンサルテーションモデルの検討
3. 学会等名 第31回日本生命倫理学会年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三浦靖彦
2. 発表標題 在宅医療における臨床研究に必要な倫理的配慮と手続き
3. 学会等名 第1回日本在宅医療連合学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 天野ゆかり
2. 発表標題 EPA介護福祉士の国家試験合格率に関する分析ーベトナム人合格者の語りからー
3. 学会等名 第26回日本介護福祉教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松田純
2. 発表標題 人生の最終段階の医療をめぐってー日本とドイツの比較的考察
3. 学会等名 シンポジウム 終末期医療、安楽死・尊厳死に関する総合的研究
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮下修一
2. 発表標題 高齢者在宅医療・介護における法的問題
3. 学会等名 第3回日本老年薬学会学術大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 後藤恵子、有田悦子、井手口直子編、堂園俊彦他23名	4. 発行年 2019年
2. 出版社 羊土社	5. 総ページ数 276
3. 書名 薬学生・薬剤師のためのヒューマニズム 改訂版	

1. 著者名 角田ますみ編、足立智孝、三浦靖彦他30名	4. 発行年 2019年
2. 出版社 メヂカルフレンド社	5. 総ページ数 300
3. 書名 患者・家族に寄り添うアドバンス・ケア・プランニング 医療・介護・福祉・地域みんなで支える意思決定支援のための実践ガイド	

1. 著者名 加藤泰史・小島毅編、松田純他26名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 456
3. 書名 尊厳と社会（上）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中村 美智太郎 (Nakamura Michitaro) (20725189)	静岡大学・教育学部・准教授 (13801)	
研究分担者	本家 淳子 (Honke Junko) (20824981)	浜松医科大学・医学部・特任助教 (13802)	
研究分担者	松田 純 (Matsuda Jun) (30125679)	静岡大学・人文社会科学部・名誉教授 (13801)	
研究分担者	三浦 靖彦 (Miura Yasuhiko) (40181854)	東京慈恵会医科大学・医学部・教授 (32651)	
研究分担者	天野 ゆかり (Amano Yukari) (60469484)	静岡県立大学・経営情報学部・講師 (23803)	
研究分担者	宮下 修一 (Miyashita Shuichi) (80377712)	中央大学・法務研究科・教授 (32641)	
研究分担者	青田 安史 (Aota Yasushi) (90551424)	常葉大学・健康科学部・教授 (33801)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------